

令和2年度 施策評価(案)概要

全51施策の評価(案)

評価基準

- ①施策を構成する事業の進捗状況
- ②成果指標等の状況
- ③施策に関する社会経済情勢等の変化

評価(案)

評価	施策数
◎：順調	15 施策
○：概ね順調	27 施策
△：やや遅れている	8 施策
×：遅れている	1 施策

特にご意見をいただきたい施策

施策1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり

施策2-3 支え合いや助け合いによる地域福祉の推進

施策3-7 日常生活の安全・安心の確保

施策4-2 循環型社会システムの構築

施策6-4 農林水産業とその関連ビジネスの振興

施策8-2 高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり

選定の考え方

- ①基本計画策定後の社会情勢の変化や動きなどに対応したもの（1-7、2-3、8-2）
- ②施策の進捗がやや遅れているもの（4-2）
- ③これまで「特にご意見をいただきたい施策」として一度も選定していないもの（2-3、3-7、6-4、8-2）

施策の方向性

家庭、学校、地域、企業、NPOなどと連携し、児童虐待など子どもに関するさまざまな問題に対する相談体制や地域全体での子育て支援の充実を図り、すべての子どもと子育て家庭を見守り育みます。

また、多様な保育サービスの充実を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組みます。

1 事業の進捗状況

●子どもの権利を尊重する社会づくり

社会的養護体制の充実

- ・ 里親養育包括支援事業による里親登録数 R1n: 37世帯 → R2n: 47世帯

児童虐待防止対策

- ・ 子育て見守り訪問員派遣該当世帯数 R1n: 252件 → R2n: 234件

●安心して生み育てられる環境づくり

新たな保育ニーズへの対応

- ・ 保育所等定員数 R1n: 39,782人 → R2n: 41,353人

保育士などの人材確保

- ・ 就職あっせん数に対する就職成立割合 R1n: 85.3% → R2n: 87.4%

多様な保育サービスの充実

- ・ 一時預かり事業の実施か所数 R1n: 13か所 → R2n: 15か所
- ・ 特別支援保育の実施か所数 R1n: 424か所（全保育施設等） → R2n: 445か所（全保育施設等）
- ・ 病児・病後児デイケア事業の実施か所数 R1n: 20か所 → R2n: 20か所
- ・ 医療的ケア児を受け入れる保育施設数 R1n: 8か所 → R2n: 14か所

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実

- ・ 産後ケア事業利用者数 R1n: 499人 → R2n: 679人
- ・ 産後ヘルパー派遣事業利用者数 R1n: 226人 → R2n: 271人

●地域における子育ての支援

放課後などの活動の場づくり

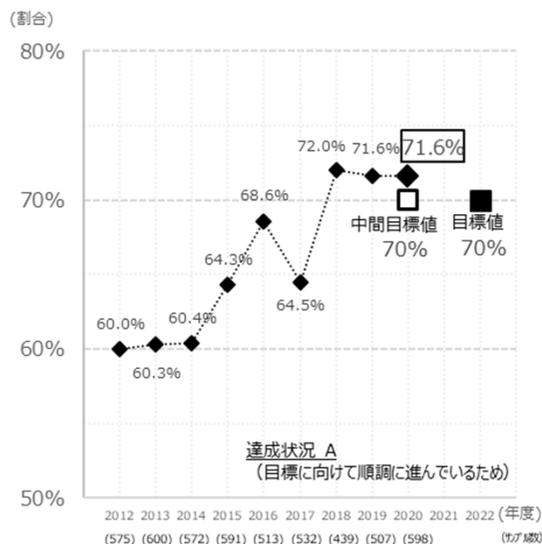
- ・ 留守家庭子ども会事業における増築等を実施した施設数 R1n: 5か所 → R2n: 7か所

2 成果指標等

指標①

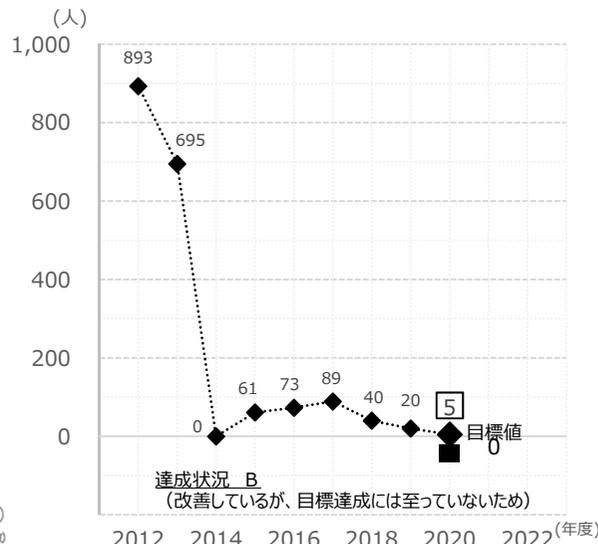
子育て環境満足度

(福岡市が子育てしやすいまちだと感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)



指標②

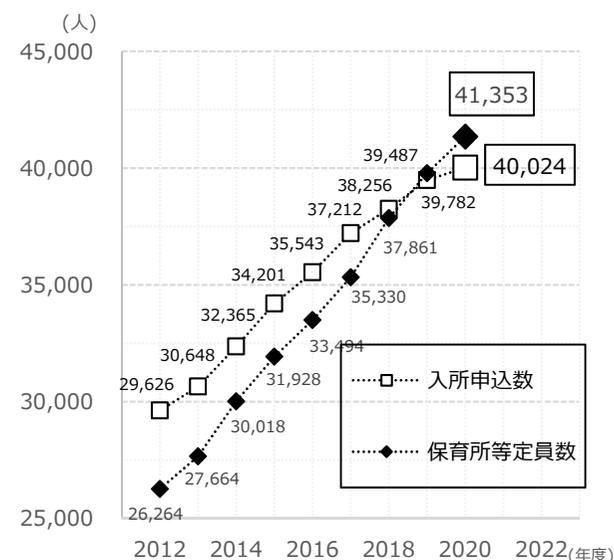
保育所入所待機児童数



指標③

保育所等定員数及び入所申込数

[補完指標]



指標①の子育て環境満足度については、目標値の70%を上回っている。

また、指標②の待機児童数については、指標③の保育所等定員増の取組みなどを進めた結果、R2.4.1 時点で5人に減少したが、待機児童解消には至っていないことから、引き続き、保育需要への対応が必要である。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度

○：概ね順調

施策の方向性

子育て家庭や高齢者、障がいのある人をはじめ、誰もが住み慣れた地域で安心して健やかに暮らしていくことができるように、自主的な見守り活動や声かけなどを通じて、隣近所などと普段から顔の見える関係づくりを進めるとともに、「支える人」を支えることも含め、住民、NPO、企業など多様な主体が地域全体で支え合う関係を築くための支援を行います。

1 事業の進捗状況

●見守り・支え合いの仕組みづくり

地域での支え合い、助け合いの仕組みづくり

・ふれあいサロン実施箇所数 R1n : 385か所 → R2n : 373か所

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動休止したサロンあり

【参考】

* ふれあいサロン利用登録者数 R2n : 9,087人

* ふれあいネットワーク自治会・町内会数、見守り世帯数 R2n : 45,223世帯

* ご近所お助け隊支援事業 R2n : 23団体（延べ数）

地域との協働による買い物等支援推進事業<再掲1-3>

・民間事業者と連携しながら、地域の支え合いを主体とした買い物先への送迎や移動販売など、多様な買い物支援の仕組みづくりを実施

【参考】

* モデル地域への支援 R2 : 6地域

* 「買い物で広がる ささえあいと笑顔の輪～買い物支援事例集～」を制作

* 「買い物支援ガイドブック」各区版を整備

子どもの健やかな成長を支える取組み<再掲1-7>

・留守家庭子ども会事業における増築等を実施した施設数 R1n : 5か所 → R2n : 7か所

2 成果指標等

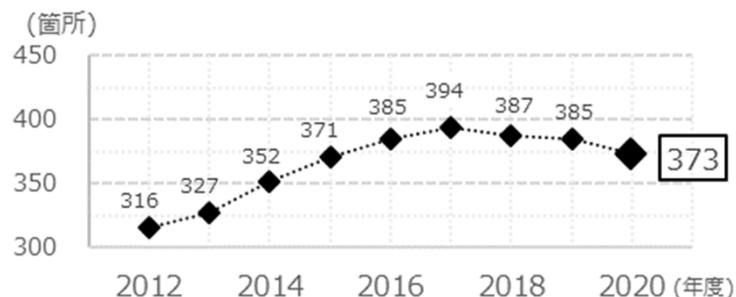
指標①

地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合



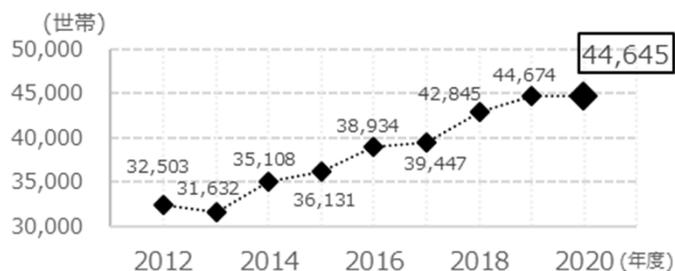
指標②

ふれあいサロン実施箇所数 [補完指標]



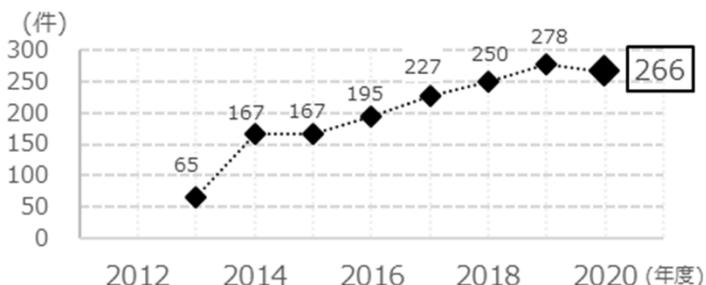
指標③

ふれあいネットワーク事業による見守り世帯数 [補完指標]



指標④

見守りダイヤル対応件数 [補完指標]



地域での支え合い活動支援（指標②、③）、見守り推進プロジェクト（指標④）などの取組みについて概ね順調に進んでいることが、地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合（指標①）の上昇につながったと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度

○：概ね順調

施策の方向性

生命・身体や財産の安全を害する消費者被害の未然防止・救済策の推進により、市民が主体的かつ合理的に行動し、安全・安心な暮らしを実現できる環境づくりを進めます。

また、市民の健康で快適な生活を守るために、食品の安全性確保や衛生的な生活環境の向上に取り組むとともに、大気環境などを監視し、市民への的確な情報提供に努めます。

1 事業の進捗状況

●消費者被害の未然防止・救済

消費者啓発の充実と消費者教育の推進

- ・消費者講座の実施回数 R1n: 126回 → R2n: 67回*
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止あり
- ・消費生活サポーター登録校区数 R1n: 107校区 → R2n: 111校区
- ・事業者サポーターの登録件数 R1n: 23事業者 → R2n: 24事業者

適確な消費生活相談の実施と事業者指導の強化

- ・消費生活相談件数 R1n: 12,290件 → R2n: 12,555件
- ・事業者指導件数 R1n: 10件 → R2n: 7件

●食の安全確保、衛生的な生活環境の向上

食品の安全性確保

- ・食品関係営業施設の監視件数 R1n: 59,018件 → R2n: 54,079件*
- ・食品の抜き取り（収去）検査検体数 R1n: 3,246検体 → R2n: 2,638検体*
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施中止あり

食の安全・安心の確保に関する市民啓発

- ・食の安全・安心の確保に関する市民向け講習会の実施回数 R1n: 201回 → R2n: 39回*
- ・カンピロバクター食中毒に関するリスク周知（学生向け） R1n: 99校 → R2n: 98校
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止あり

セアカゴケグモの駆除と注意喚起

- ・セアカゴケグモ等の定期的な調査 R2n: 469件、駆除261件、7,382匹

●大気汚染などの保全

大気環境についての市民周知・対応

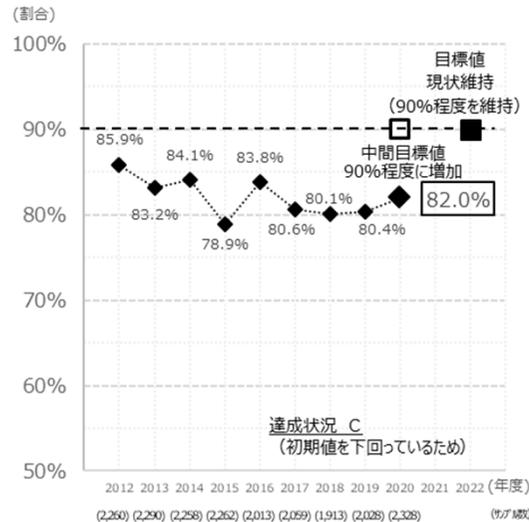
- ・黄砂情報提供回数 R1n: 17回 → R2n: 21回
- ・PM2.5予測情報提供回数 R1n: 1回 → R2n: 4回

2 成果指標等

指標①

消費者トラブル未然防止に対する 市民意識度

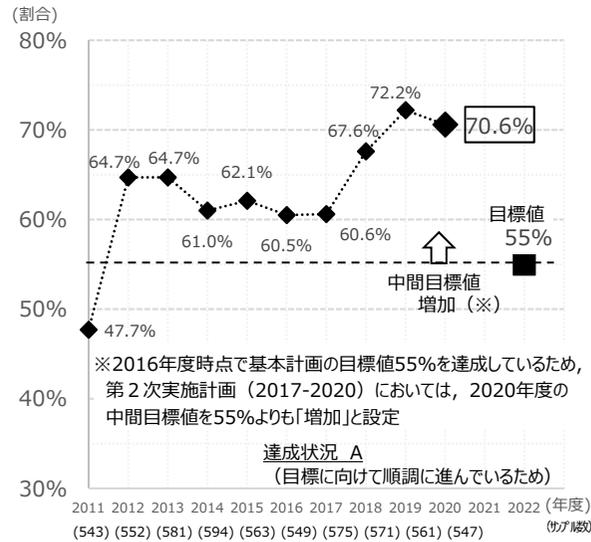
(商品やサービスの購入時に日頃からトラブル回避を心がけている市民の割合)



指標②

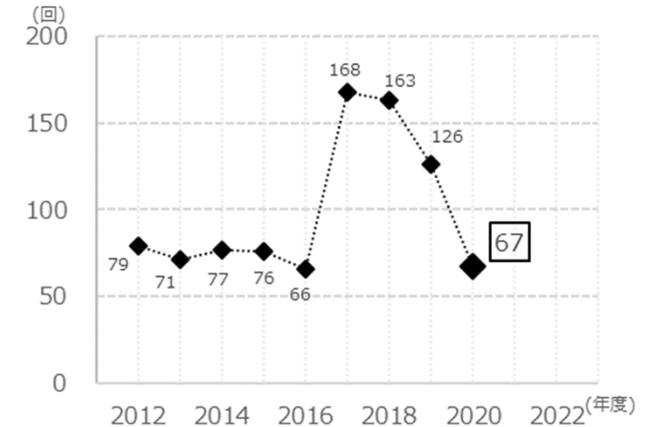
食の安全認識度

(食に対して安心だと感じる市民の割合)



指標③

消費者講座の実施回数 [補完指標]



指標①は、消費者講座の実施などにより、高い水準を保っている。数値は、初期値よりも低下しているが、多くの市民は既に、消費者トラブルに遭わないようある程度の自己防衛を行っている一方で、日々の契約等においてこれまで以上の心がけを意識的に行うという認識が低下しているとも推測される。

指標②の数値は、H24nから一貫して目標値を超えている。これは、近年、本市の食品衛生施策に一定の効果がみられ、また、近年、食の安全を揺るがす大きな事件や事故が発生していないためと推察される。

指標③は、消費生活に必要な知識の普及を図るための消費者講座の実施回数である。H29nから成年年齢引下げも見据えて、中学校での講座を開始するなど、消費者講座の実施回数が増加する傾向にあったが、前年度より減少した主な要因は、新型コロナウイルス感染症の影響で講座が実施できなかったためである。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考]前年度
○：概ね順調

施策の方向性

家庭ごみについては、3 R（リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用））のうち、特に2 R（リデュース、リユース）の意識向上と行動促進のための啓発を行うとともに、事業系ごみについては民間事業者の主体的な資源化の取組みを促進するなど、自主的・自発的な取組みを支援することで、環境負荷を低減し都市の発展を持続させる「福岡式循環型社会システムの構築」を推進します。

1 事業の進捗状況

● 3 Rの推進

家庭ごみの減量・資源化推進

- ・ 地域集団回収等回収量 R1n : 32,531トン → R2n : 29,617トン
- ・ 地域集団回収等拠点数 R1n : 495か所 → R2n : 495か所
- ・ 使用済小型電子機器回収量 R1n : 104,390kg → R2n : 131,641kg

事業系ごみの減量・資源化推進（古紙・食品廃棄物の資源化推進等）

- ・ 民間事業者による事業系ごみ資源化施設建設に係る指導・助言を実施
- ・ 事業系古紙リサイクル量 H30n : 174,098トン → R1n : 161,249トン ※R2nはR3n下期公表予定
- ・ 事業系食品廃棄物リサイクル量 H30n : 7,015トン → R1n : 7,297トン ※R2nはR3n下期公表予定

3 Rの周知広報

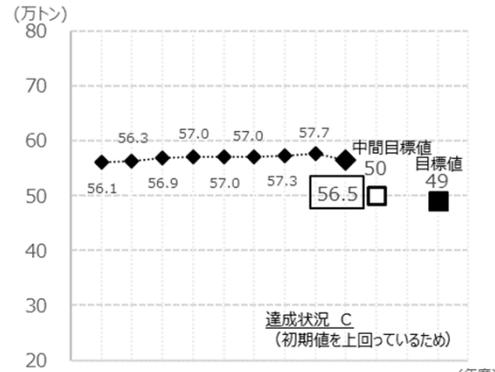
- ・ ごみと資源の分け方・出し方情報サイトのアクセス数 R1n : 604,435 → R2n : 838,015
- ・ 食品ロス削減出前講座 実施回数・参加人数 R1n : 31回・1,127人 → R2n : 26回・1,131人
- ・ エコクッキング講座 実施回数・参加人数 R1n : 3回・97人 → R2n : 開催中止（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため）
- ・ 食品ロスに関する親子体験教室 実施回数・参加人数 R1n : 4回・83人 → 開催中止（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため）
- ・ 食品ロス削減キャンペーン 実施回数・応募件数又は参加人数
R1n : イベント、講座4回・参加人数1,497人 → R2n : フードドライブ4回・回収個数(量) 1,701個 (536kg)・参加人数178人

プラスチックごみや食品ロスの削減などの課題に対応するため、新たなごみ処理基本計画（令和3年度策定予定）を策定し、ごみ減量・リサイクルに向けた更なる施策の展開を図ることとしています。

2 成果指標等

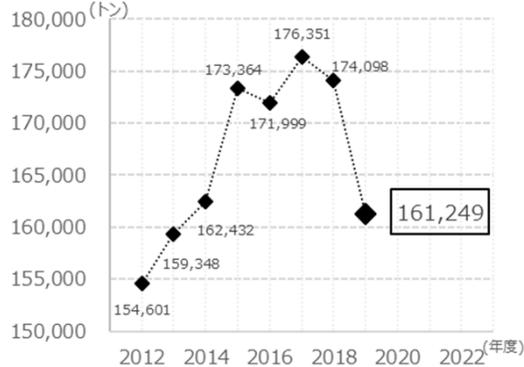
指標①

ごみ処理量



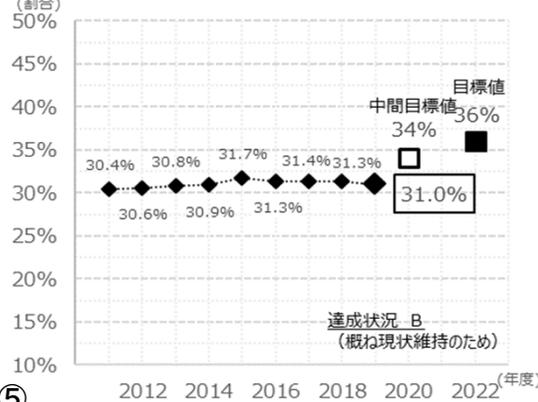
指標④

事業系古紙のリサイクル量 [補完指標]



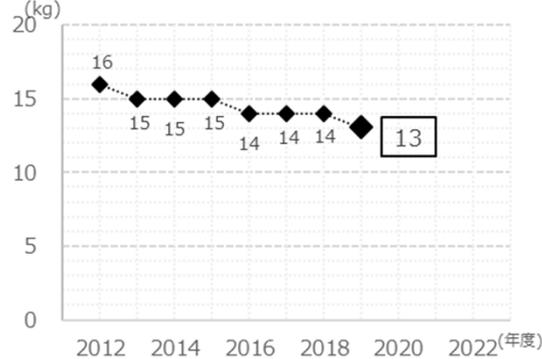
指標②

リサイクル率



指標⑤

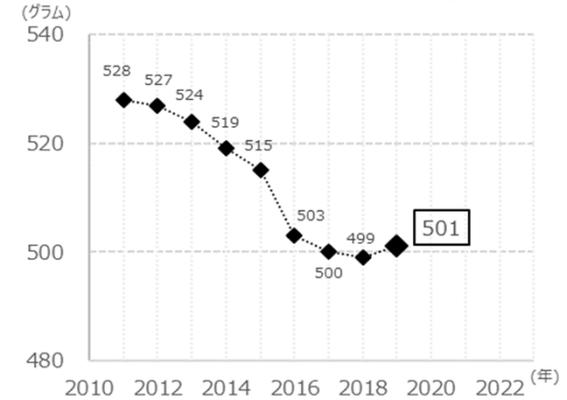
1事業者1日あたりごみ処理量 [補完指標]



指標③

市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量

[補完指標]



指標①は、目標値とは乖離しているものの、人口や事業所数が増加する中、ほぼ横ばいで推移しており、市民の3Rへの取組みや事業者への指導・啓発等の効果が現れているものと考えられる。指標②は、前年度と比較すると微減となっており、これは新聞発行部数の減少による地域集団回収の回収量の減少等が影響しているものと考えられる。指標③は、H29n以降は横ばいで推移しているため、施策の強化が必要と考えられる。指標④は、前年度と比較すると減少しているが、これは事業系ごみ処理量が減少しているためと考えられる。指標⑤は、減少傾向にあり、事業者への指導・啓発等の取組みに加え、R1nは木くずや市外の産業廃棄物の搬入規制による効果が現れているものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている

[参考] 前年度
△：やや遅れている

施策の方向性

新鮮で安全な農水産物を市民に安定供給するため、新たな担い手づくりや地産地消、特産品開発の推進など経営の安定・向上を図るとともに、農地、漁場など生産基盤の整備・維持に努めます。

また、福岡・九州の食のブランド化を図り、食品の製造や流通など関連産業の振興に取り組むとともに、中央卸売市場については、広域にわたる生鮮食料品などの流通の拠点として、市場機能の強化に取り組みます。

1 事業の進捗状況

● 経営の充実強化、新たな担い手づくり

就業支援強化による新規就業者の確保

- ・ 新規就業者（農業） R1n: 20名 → R2n: 28名
- ・ アグリチャレンジ 受講生数 R1n: 13名 → R2n: 15名

貸し手と借り手のマッチングによる耕作放棄地の活用促進

- ・ 耕作放棄地ホームページ掲載面積（延べ） R1n: 3.5ha → R2n: 3.8ha

6次化商品の開発やPR・販路拡大による農産物のブランド化

- ・ 新商品開発に取り組む事業者等の数 R1n: 5事業者 → R2n: 3事業者

ふくおかさん家のうまかもんを利用する事業者の認定とPRによる地産地消の推進

- ・ ふくおかさん家のうまかもん事業者認定件数 R1n: 725件 → R2n: 823件

● 生産基盤の整備・維持

鳥獣害被害防止策や機器導入支援などを通じた生産安定性確保

- ・ ワイヤーマッシュ柵設置距離 R1n: 9.8km → R2n: 8.6km

木材生産の低コスト化による林業資源のビジネス化を推進

- ・ 効率的な森林作業道の整備による利用間伐 R1n: 8.0ha → R2n: 10.7ha
- ・ 森林基幹道早良線の整備における工事進捗率（県営事業） R1n: 94% (14.3km) → R2n: 100% (15.2km) (完了)

漁場環境の改善等による水産資源再生産機能の回復・維持

- ・ 海底ごみ回収量 R1n: 294m³ → R2n: 282m³

● 市場機能の強化

【ベジフルスタジアム】青果物の「安全・安心」を市場ブランドとして確立

- ・ ベジフル感謝祭開催回数 R1n: 11回 → R2n: 実施なし（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため未実施）

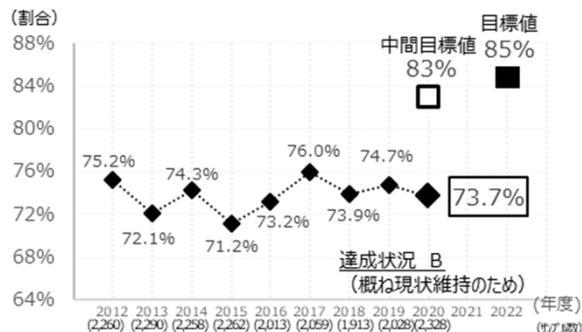
市場開放事業による鮮魚市場の活性化

- ・ 市民感謝デー開催回数 R1n: 11回 → R2n: 実施なし（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため未実施）

2 成果指標等

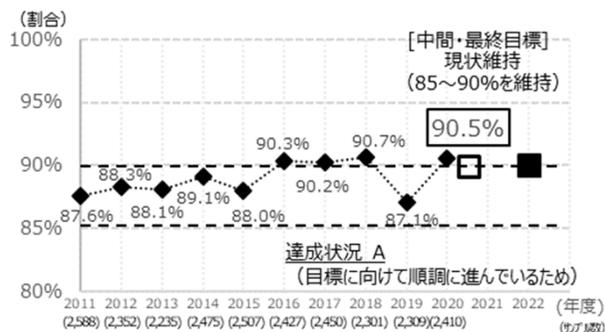
指標①

福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思う市民の割合



指標②

新鮮でおいしい食べ物の豊富さへの満足度



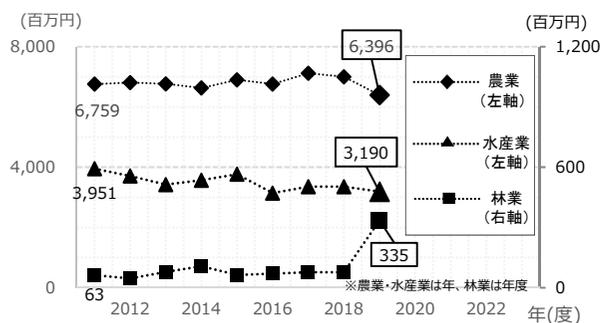
指標③

食関連産業の従業者数



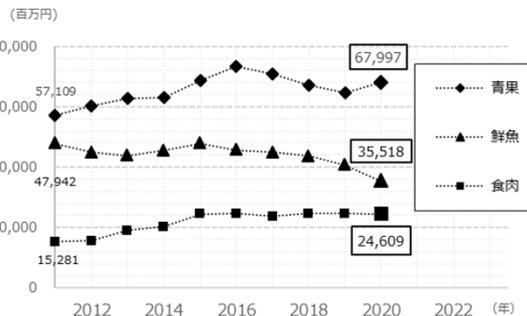
指標④

農林水産業の生産額 [補完指標]



指標⑤

中央卸売市場の取扱金額 [補完指標]



指標①は前年度から下降しているものの現状維持、指標②は前年度から上昇しており、これは福岡市の農林水産業の普及・促進に関する取組みや農水産物に関するPRなどによるものと考えられる。
 指標③は、年度により増減があるが、これは景気の変動等によるものと考えられる。
 指標④、⑤は、年度により増減があるが、これは天候などが影響しているものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考] 前年度
○：概ね順調

施策の方向性

アイランドシティ、九州大学学術研究都市、シーサイドももちの地域ごとの特性を生かし、港湾機能を生かした物流関連産業、成長分野である健康・医療・福祉関連産業や環境・エネルギー産業、福岡市のリーディング産業である情報関連産業など、さらには、大学の知的資源を生かした研究開発機能について、各地域への交通ネットワークの充実・強化を図りながら集積を促進し、拠点形成を進めます。

1 事業の進捗状況

●先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり

アイランドシティ整備事業

- ・まちづくりエリアの道路整備率 R1n: 83% → R2n: 88%
- ・共同住宅の供給戸数（累計） R1n: 3,701戸 → R2n: 4,249戸
- ・自動車専用道路アイランドシティ線の完成に向けて橋梁（下部工・上部工）の工事等を実施 ※R3.3.27供用開始（事業終了）

海とみどりを活かした住空間づくり

- ・まちづくりエリアの分譲進捗率 R1n: 81% → R2n: 81%
- ・アイランドシティはばたき公園の段階的整備の推進 R2n: 園路の整備（雨水排水施設工事等）

健康のまちづくり

- ・健康のまちづくりを推進するため立地事業者を主体とする協議会を支援

アイランドシティ港湾機能強化

- ・みなとづくりエリアの道路整備率 R1n: 71% → R2n: 71%
- ・岸壁整備の実施 R2n: 完成
- ・分譲用地の確保に向けた土地造成の実施

●九州大学学術研究都市構想の推進

九州大学学術研究都市推進機構との連携

- ・学術研究都市セミナーの参加者数 R1n: 120人 → R2n: 320人

九州大学移転に伴う西部地域のまちづくり

- ・元岡土地区画整理事業地区内の立地割合 R1n: 64.6% → R2n: 68.5%
- ・北原・田尻土地区画整理組合による、学園通線沿道の計画的なまちづくりの支援
- ・学園通線の整備（R2n: 擁壁設置、歩道舗装等を実施）
- ・周船寺川河川改修率 R1n: 46.8% → R2n: 50.1%（見込み）
- ・水崎川河川改修率 R1n: 98.4% → R2n: 98.4%（見込み）

●シーサイドももち（SRP地区）の拠点性の維持向上

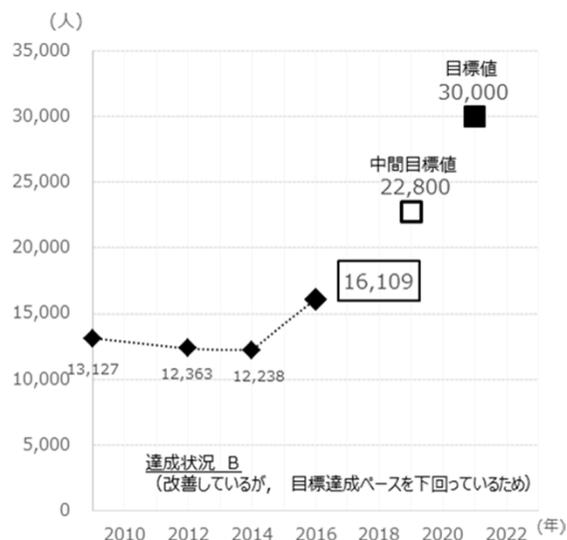
IT・IoTの拠点としての活性化

- ・福岡市IoTコンソーシアム会員数 R1n: 473 → R2n: 693
- ・ふくおかAI・IoT祭りinSRP参加人数 R1n: 511人 → R2n: 1,041人
- ・SRPオープンイノベーションラボでのセミナー開催数 R1n: 23回 → R2n: 57回
- ・福岡ソフトリサーチパークIT講座開催数・参加人数 R1n: 7回、310人 → R2n: 1回、200人

2 成果指標等

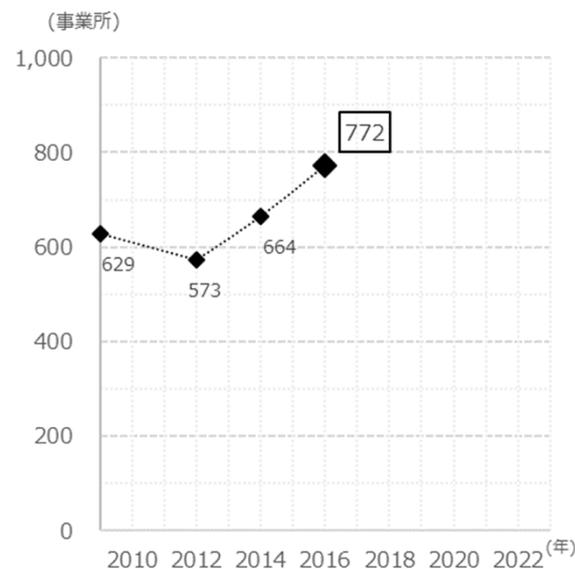
指標①

アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち（SRP地区）の従業者数



指標②

アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち（SRP地区）の事業所数 [補完指標]



指標①及び②について、アイランドシティでは、道路等の基盤施設整備や土地分譲が進んだことにより、みなとづくりエリアにおいて物流施設の集積、まちづくりエリアにおいて、健康・医療・福祉関連施設等の集積が進んでおり、従業者数・事業所数ともに増加している。また、九州大学学術研究都市では、事業所数は概ね横ばいで推移しているが、従業者数については、九州大学の移転が進んだことにより増加している。さらに、シーサイドももち(SRP地区)では、I o TやA Iに関する事業の振興や、情報関連産業の企業誘致の推進などによりSRP地区への転入がある一方、市内他地区への転出もあるため、従業者数及び事業所数は大きな増減なく推移している。3地区全体では、従業者数及び事業所数は増加している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考] 前年度
○：概ね順調